

3939 欧州 18カ国の旅：ハルシュタット・湖畔の時計塔

がりょうてんせい
画龍点睛という言葉。辞書では、物事全体を生かす中心のこと、とある。

前回も感じたことなのだが、この時計塔がなければ、平凡な景観なのではないだろうか。

久楽の考え方・人生、アイデンティティーを求めて魂の世界をさまよう。晩年は所有より、存在。

背景の山々はじめ、主役、脇役と決めつけられないが、この時計塔の存在は大きい。

欧州では、再三お目にかかるただの時計塔だが、この環境と状況下では・・・ と今回も感じた。



